

絶え間ない 変革と挑戦の日々

総務省情報流通行政局
総務課統括補佐

宮野 光一郎 MIYANO Koichiro

- 平成 17年 4月 総務省採用
- 同 情報通信政策局放送政策課
- 平成 18年 8月 同 行政評価局総務課政策評価審議室 併任 政策評価官付
- 平成 19年 7月 同 大臣官房秘書課
- 平成 20年 7月 同 総合通信基盤局総務課総括係長
- 平成 21年 7月 同 情報流通行政局情報通信作品振興課企画係長
- 平成 22年 1月 内閣官房国家戦略室主査
- 平成 24年 7月 仏国留学(パリ・ドフィーン大学)
- 平成 26年 8月 総務省情報流通行政局郵政行政部郵便課国際企画室課長補佐
- 平成 28年 7月 同 総合通信基盤局電気通信事業部事業政策課課長補佐
- 平成 30年 6月 在フランス日本国大使館一等書記官
- 令和 3年 7月 現職

総務省は、行政管理、地方自治、情報通信 (ICT)、統計、消防など、実に幅広い行政分野を所管しています。私は、入省以降、ICT分野を中心にキャリアパスを歩んできました。

急速に進展するICT分野

ICT分野の特徴を1つ挙げるとすれば、「不変」と「進展」の両面を兼ね備えている点でしょうか。ICTは、世代や地域を問わず国民生活に必要な不可欠な存在であり、国家を支える基幹的インフラであるという本質は今も昔も(これから)変わらない中で、これを取り巻く環境は急速に進展し続けています。各省庁で扱われているどの行政分野も重要なものであることは言うまでもありませんが、進展のスピードという点において、ICT分野はマラソンで言えば間違いなく「先頭集団」に属するでしょう。総務省職員として、ICT分野におけるルール企画・立案役を全うするためには、日頃の勉強や情報収集も含め断続的な努力が欠かせませんが、その分得られる充実感はとても大きなものです。

1年目からのチャンス

私が入省して最初に携わったのは放送行政で

した。当時、日本への対内投資の増加や株式保有・出資形態の変化等が生じていた中で、社会的影響力の大きい地上放送に対する外資規制の実効性を確保するための法改正が急務とされており、私も法改正を担当するチームの一員に加わることになりました。自身の力不足を感じつつも、少しでもチームに貢献したいという一心で奮闘する日々でしたが、入省1年目にして法改正という大きなプロジェクトに携わることのできる驚きと喜びを感じていたことを今でも覚えています。

より良いルールを

そして、今現在、放送行政における重要案件の1つとして、現状を踏まえた外資規制の見直しに向けた検討・作業等が進められており、私も担当部局(情報流通行政局)の一員としてこれに参画しています。一度ルールを作ったら単にそれを維持するというのではなく、時代の潮流や社会経済状況の変化を的確・迅速に捉えながら、絶えずより良いものへと変えていくことの大切さを改めて実感しているところです。

総務省の中には、「この国をより豊かにしたい」という想いを持つ方が活躍できる場や成長できる機

会が多分に用意されています。志ある皆さんとお会いできる日を楽しみにしています。



パリ在勤時代の総務省出向者の集い



オンライン会議に出席

新たな技術を社会に広めるために

現在、私は5Gの社会実装を進める施策に取り組んでいます。皆さんがお持ちのスマホでも5G対応のものもあると思いますが、超低遅延や多数同時接続といった5Gの特徴は、スマート農業などの産業に利用されてこそ真価を発揮します。

この5Gについて、総務省では、周波数割り当てなども含めた規制、予算事業(補助金)、税制措置など様々な政策ツールを総動員して取組を進めています。この中で私は税制を担当しており、地方でも一層整備が進むようにするためにはどうするか、より高度な基地局の設置が促進されるような要件は何か、といったことを日々議論し、政策をつくっています。新たな社会のための技術の実装に向けた仕組みをつくるこの仕事に非常にやりがいを感じています。

不可欠なデジタル基盤とは

一方、新しい技術の社会実装を進めるだけでなく、現代において必要不可欠な情報通信サービスを誰もが利用できるようにするという視点も必要

です。過去には、このような誰もが使えるべきサービス(「ユニバーサルサービス」と呼びます。)として何を位置づけ、どのようにその提供を確保するのか、という制度化に向けた検討を担当しました。

例えば、デジタル化の基盤となる「ブロードバンド(高速インターネット接続サービス)」が不可欠ということは多くの人の意見が一致するところですが、それを誰もが利用できるようにするための制度を設計する際には、今後の技術進展を見据えてどのサービスを対象とするか、サービス維持のための費用は誰がどのように負担すべきか、などの様々な考慮すべき視点があり、具体的な政策を立案することは針の穴を通すような難しさがありました。

しかし、将来のネットワーク基盤の在り方を上司や事業者、研究者の方々と喧々諤々と議論しながら自らで解を考え出すことは、まさに政策づくりの醍醐味であり、総務省だけでしかできないクリエイティブな仕事です。

未来を見据えて

振り返ると、総務省でこれまでやってきたいずれも仕事も、未来の情報通信を見据えた上で、現在取り組むべき方策や構築すべき仕組みが何かを考

える、という前向きな仕事でしたし、国の将来を規定する責任重大な仕事でもありました。今後もそれは同じだと思います。

このような刺激的でスケールの大きいプロジェクトを自らの手で進めてみたいという気持ちがあるのであれば、総務省は非常に魅力的な場所なのではないでしょうか。



留学中の卒業プロジェクト発表会にて



休日に息子と

この国の未来をつくる仕事

総務省情報流通行政局
地域通信振興課課長補佐

甚田 桂 JINDA Katsura

- 平成 22年 4月 総務省採用
- 同 総合通信基盤局電気通信事業部事業政策課
- 平成 24年 8月 同 情報流通行政局情報通信作品振興課流通調整係長
- 平成 26年 7月 同 自治財政局調整課主査
- 平成 28年 7月 同 情報流通行政局郵政行政部貯金保険課課長補佐
- 平成 29年 7月 米国留学(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)
- 令和 元年 7月 総務省総合通信基盤局電気通信事業部事業政策課課長補佐
- 令和 3年 7月 現職